

# 協会を支える分科会活動

分科会運営委員会 委員長 奥山 喜久夫

## 1. はじめに

分科会活動は、国際粉体工業展と並んで協会の中心的な活動であり、現在21の分科会体制（単位操作型14、プロジェクト型7）となっている。分科会の活動は自主性が重んじられており、企画および活動状況は、各分科会で特色あるものとなっている。さらに分科会活動は、協会の企業会員および個人会員の交流の場、未入会企業の入会に繋がる場として大変重要であり、分科会運営委員会はこれらの分科会が持続的に運営および活動できるようにサポートしている。委員の構成は、委員長：奥山喜久夫、副委員長：浅井信義、鈴木康夫、委員：秋山聡の4名である。ここでは主として、新型コロナウイルス感染症流行下での2021年度の分科会活動の全体的な状況、分科会運営委員会の活動の概要および2022年度の活動の方向性を述べる。

## 2. 2021年度の分科会活動の概要および運営委員会の活動

### 2-1 全般的状況

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の流行により、通常での分科会の本会合の開催は極めて困難であったが、各分科会は Web セミナーなどを開催する工夫を進めた。事務局で作成された本会合の開催に関するガイドラインに基づいて、「オンサイト開催」では、体温の計測などの感染予防対策を徹底遵守しながら、本会合を安全に開催することが可能となった。本年度に開催された本会合数は延べ37回、参加者の総数は約1,500名とコロナ禍前の約60~70%程度と少なくなったが、昨年度より倍近くとなった。粉体ハンドリング分科会、粉碎分科会、集じん分科会、混合・成形分科会、計装測定分科会、輸送分科会、環境エネルギー・流動化分科会、晶析分科会、電池製造技術分科会、食品粉体技術分科会、粉体シミュレーション技術利用分科会、バイオ粒子プロセス分科会が、2回以上の本会合を実施した。

一方、幹事会は例年に近い回数で開催されており、幹事の方々が熱心に対応を議論されていたことをうかがうことができる。

### 2-2 拡大分科会運営委員会および分科会連絡会議の運営

毎年度開催している拡大分科会運営委員会（2021年8月：京都）および分科会連絡会議（2022

年1月：名古屋）もコロナ禍の大きな影響を受け、Web 併用による会議として開催され、分科会の活動報告、特に新型コロナウイルス感染症の流行下での分科会活動の進め方および課題が議論された。

拡大分科会運営委員会では、各分科会から本年度の事業計画の見直しが説明され、Web 利用による分科会本会合の開催に向けての議論が行われた。また、分科会運営相談会を、計装測定分科会、粒子加工技術分科会、電池製造技術分科会を対象に実施した。この相談会では、分科会の活動および課題について、分科会の主要メンバーと分科会運営委員会の間で意見交換を行った。

分科会連絡会議は、オミクロン株による新型コロナウイルス感染の流行が急激に拡大したために、各分科会参加者の約半数が Web 出席となった中で、各分科会から2021年度の活動状況、本会合開催の変更ならびに2022年度の事業計画と運営方針・課題などの説明が行われた（写真-1）。また、表-1、2のように、分科会活動に貢献した個人の方々に対し10名の方々が第17回分科会功労賞を、委員会・部門活動に貢献した4名の方々が第8回委員会・部門功労賞を受賞され、Web も利用しながら表彰式を開催した。



写真-1 分科会連絡会議の様子

表-1 2021年度 第17回分科会功労表彰者一覧

氏名	所属	分科会
朝日正三	(株)徳寿工作所	混合・成形
大森一成	味の素(株)	晶析
小川嘉康	日本アイリッピ(株)	造粒
勝又正樹	(株)徳寿工作所	分級ふるい分け
栗原秀直	ホーコス(株)	集じん
津吹幸久	(株)セイシン企業	粉碎
中津井誠一	(株)椿本バルクシステム	輸送
山田正	澁谷工業(株)	電池製造技術
山田治生	(株)椿本バルクシステム	リサイクル技術
大和一敏	東洋ハイテック(株)	粉体ハンドリング

(氏名50音順、敬称略)

表-2 2021年度 第8回委員会・部門功労表彰者一覧

氏名	所属	委員会・部門
内山宇逸	アマノ(株)	粉じん爆発
木村勇男	麻益(株)	集じん技術
高橋かより	国研産業技術総合研究所	規格
森田章友	ライオン(株)	「粉体技術」編集

(氏名50音順、敬称略)

## 2-3 個別分科会の教育部門や国際粉体工業展での活動

分科会活動で得た有益な情報・知見を外部に発信する場として粉体技術専門講座が開催されている。各分科会には、およそ数年に1回程度の開催を期待されているが、分科会活動と同様、厳しい状況下において、食品粉体技術分科会が「食品粉体に関わる先端技術」を開催した。また、粉体技術者養成講座については、混合・成形分科会、分級ふるい分け分科会、粒子加工技術分科会、集じん分科会、粉碎分科会、湿式プロセス分科会の6分科会を開催した。この講座は、少人数での若手人材育成事業として高く評価されており、今年度からは、より分科会が主体的に企画内容を決められる講座に変更された。

また、国際粉体工業展大阪2021では、造粒分科会、晶析分科会、リサイクル技術分科会、電池製造技術分科会、粉体シミュレーション技術利用分科会がセミナーを開講した。

このように協会の他の事業との連携・協力も各分科会の重要な活動となっている。

## 2-4 分科会運営委員会の活動など

当初の計画通り4回の委員会を開催し（うち1回は拡大分科会運営会）以下のような検討を行った。

- (i) 分科会活動の支援方法などに関すること。
- (ii) 拡大分科会運営委員会では分科会活動の紹介と分科会の組織の強化などへの対応
- (iii) 新型コロナウイルス感染症流行下における分科会の活動における「オンライン開催」と「Webセミナー開催」の進め方

さらに、個別分科会の体制、運営の充実化および複数分科会の今後の在り方などについて、2回の小委員会でも議論した。

## 3. 2022年度の分科会運営委員会活動の方向性

### ①分科会の体制・組織の強化

分科会活動の全体的な検討を行い、協会としての分科会活動が将来に向かって順調に発展するように議論する。分科会運営相談会などを通して、分科会の開催や体制の改善が必要な場合は、分科会の方々と協力して組織および運営の充実化を図る。将来必要となる粉体技術などについて議論し、必要に応じて新しい分科会の立ち上げや、統合などについて議論する。

### ②コロナ禍継続下での分科会活動

個別分科会での本会合の開催は原則年2回以上であるが、粉体技術者養成講座や専門講座を含むことで、状況に応じ無理のない範囲で実施する。感染対策を施したうえで現地開催やWeb開催も取り入れ、ハイブリッド（現地+Web）方式など状況に応じた開催を推し進める。分科会開催後の交流会も感染対策に配慮して開催する。

### ③粉体技術者養成講座の開催と専門講座の着実な実施

粉体技術者養成講座の内容は、分科会が関連する基礎的な粉体技術を技術者に伝承することを目的とするが、実習は必須ではなくなった。原則として2年に1回の開催とする。専門講座は、分科会活動で得た最新の技術的知見などを集約し広める場であり、数年に一度程度開催する。

### ④新入会員のフォローとメルマガの配信への協力

新入会員が希望する分科会への入会登録した場合、これらの新入会員のフォローを総務委員会、海外交流委員会と連携して行う。メルマガ配信数の拡大のために、個人情報取り扱いの承諾を得られた分科会参加者リストを総務委員会に提出して、広報改革の一助とする。

## 4. おわりに

分科会運営委員会は、分科会活動の全体的な検討を行い、協会としての分科会活動が将来に向かって順調に発展するように議論している。21分科会のうち13の分科会がAIやIoT技術の導入・利用に関心を持っており、昨年度より活動を開始したAI技術利用委員会との一層の連携などについて議論を進めたいと考えている。

おくやま きくお  
奥山 喜久夫  
広島大学名誉教授

E-mail: okuyama@hiroshima-u.ac.jp